

## 妊婦慎用・禁鍼穴の調査－肩井穴

小雀斎漢方針灸治療院

つくば国際鍼灸研究所

天津中医薬大学針灸標準化研究所

渡邊大祐

### 【緒言】

妊婦に鍼灸治療を行う場合、他の疾患の場合以上に、鍼灸による副作用、特に流産の誘発が問題視される。中医薬大学教材には「妊婦慎用・禁鍼穴」の記載が散見されるため、中医薬大学教材における妊娠時に使用を制限・注意すべき腧穴の記載を調査し、妊婦鍼灸治療の安全性向上に資する。

### 【方法】

中医薬大学教材に記載のある主な妊婦慎用・禁鍼穴 [1] のうち肩井穴 (GB21) を対象とする。妊婦肩井穴の使用が危険である、または安全である根拠を臨床報告および古典から検索・収集する。現代文献検索：7つの文献データベースにて特定の検索式で検索し、選択・除外基準に照合し該当した文献を採用する。古典検索：『中華医典』および『中国針灸穴位通鑑』を使用し、対象の刺法や主治に関する内容を検索、選択・除外基準に照合して該当した条文を採用する。

### 【結果】

現代文献では、1篇の文献を採用した。当該文献は、100例の分娩促進に肩井穴への鍼通電を用いたケースシリーズで、87例で刺鍼後24時間以内に陣痛をおこし分娩したとあった。古典では、『千金要方』に肩井穴の難産・分娩促進作用や妊婦禁鍼に関する記載が登場し、『類経図翼』で初めて妊婦禁鍼の明確な記載が見られた。『類経図翼』後、明清代に多くの著作に妊婦禁鍼の記載が見られるようになるが、いずれも『千金要方』・『類経図翼』の記述に依拠していた。

### 【考察】

現代臨床報告では、分娩促進への応用が報告されており、古典では難産治療・分娩促進の作用や妊婦禁鍼の記載があることから、不注意や粗暴な刺鍼操作により流産・早産を招く可能性が示唆される。黄龍祥が『針灸腧穴通考』で述べているように、中医薬大学教材では『類経図翼』の記載を根拠に肩井穴を妊婦禁鍼としているようである。本調査の採用文献はいずれもエビデンスレベルが低いため、妊婦肩井穴の禁鍼推奨の是非にはさらなる評価・検証の必要性が示唆された。

キーワード：妊婦慎用、妊婦禁鍼、禁鍼穴、肩井、GB21

文献：

[1] 渡邊大祐: 中医薬大学教材における妊婦慎用・禁鍼穴の調査.第9回日本中医学会  
学術総会抄録集, 東京, 59-60, 2019